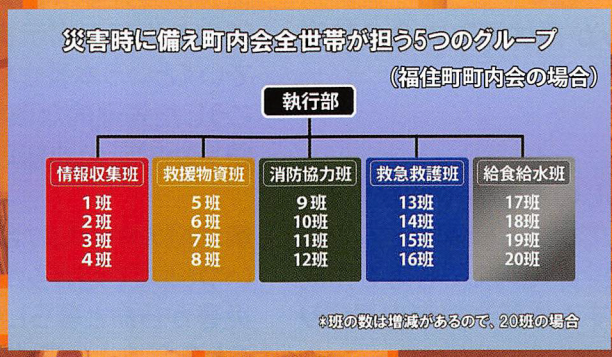
防災教育ＤＶＤ

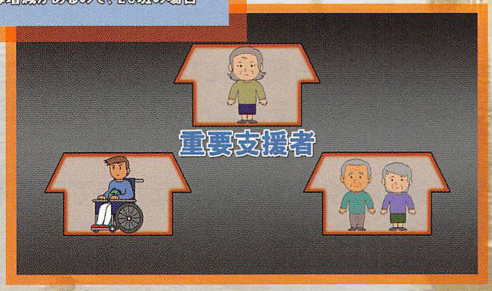
監修 公益財団法人 市民防災研究所

一般向け【ＤＶＤ・約23分】

全員参加の自主防災

災害に強いまちづくり





企　画　意　図

日本ではたびたび自然災害に見舞われ、多くの人々が犠牲となってきました。

日本に暮らすには、地震や集中豪雨など、さまざまな自然の脅威と常に向き合い続けなければなりません。そのためまず災害の危険が迫ったときには、自分で自分の身を守る心構えをもつこと、そして地域の中で住民同士が助け合うことが必要です。この住民による助け合い、「共助」の中心となるのが自主防災組織です。

今、全国各地で自主防災組織が活動しています。防災の課題は地域ごとに異なるため、活動のあり方はさまざまです。とはいえ、高齢者、障がい者などの「災害時要援護者」を地域の中でどのように支援するかは重要な課題のひとつとなっています。また、最近では、自分たちの地域の中での助け合いだけでなく、他の地域の自主防災組織と連携し、広域的に助け合っていくことも求められています。

本作品では、まず、最近の土砂災害・地震災害において、自主防災組織がどのような活動をして減災に結びついたかを紹介します。次に、仙台市にある自主防災組織のひとつ、福住町町内会の活動を例に、自主防災組織とは何か、日頃どんな活動が必要なのか、そのポイントを示していきます。

地域の中で自主防災組織の活動に取り組んでいる人は、より良い組織作りの手がかりとして、地域の防災活動について、よくわからないという人には、関心をもつきっかけになればと考えています。

防災教育ＤＶＤ

一般向け
約23分

全員参加の自主防災　災害に強いまちづくり

■自主防災組織の活動
全国の自主防災組織の数は、年々増え続けている。しかし、充実した防災活動を展開している組織はそれほど多くはない。
「自助」を基盤とした「共助」の実現。これが、被害を最小限にすることにつながる。
そのためには、地域の中での日頃の活動が重要である。

■地域の中の自主防災組織とは
福住町町内会では、町内会に参加する全世帯が班に属することになっている。
それぞれの班は「情報収集班」や「救援物資班」など5つの災害対策グループのいずれかに属し、災害発生時には災害対策本部と連絡を取りながら、各グループが支援活動を進めていくことになる。
こうした全員参加型の取り組みが福住町町内会の特徴のひとつである。

■名簿づくりと災害支援
福住町町内会では、ひとり暮らしの高齢者や障がい者、高齢夫婦の世帯、家族と同居していても日中は一人で過ごす高齢者を、独自に「重要支援者」と呼び、名簿を作成している。役員は普段から担当する重要支援者の見守り活動などを行っている。
重要支援者と顔の見える関係になっていたことで、東日本大震災の際、安否確認をスムーズに行うことができたという。
普段の活動を通してゆるやかにつながっていたことが、災害時に大きな力となった。

■災害時相互協力協定
「災害時相互協力協定」は、全国の町内会や市民団体と協定を結んで、普段から積極的に交流し、災害時の助け合いにつなげることをめざすものだ。
「災害時相互協力協定」では、災害時の支援だけでなく、普段のイベントなどで協力しあう関係を作っておくことが大事だという。

■夏祭りから防災訓練へ
福住町では、祭りなどの行事を通して、楽しみながら住民同士の信頼関係を深めている。防災の取り組みを活性化するには、こうした日頃の活動が欠かせない。
そして11月、福住町公園で年に一度の防火・防災訓練が行われる。
班長は自分の班をまわって各家の被害状況を確認し、公園内の本部の掲示板に自分の班の被害状況を書き込んでいくという本番さながらの訓練だ。
こうした先進的な取り組みが評価され、福住町町内会は防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞した。

■地域の中で助け合う
いつ、どこで起きるかわからない自然災害。
災害から命と暮らしを守るためには、自分で自分を守ることを基本として、地域の中で助け合うことが欠かせない。
日頃から、ひとりひとりが防災を身近なものとしてとらえ、地域の防災活動に積極的に関わっていくことが大切だ。

監修　公益財団法人 市民防災研究所
協力　福住町町内会
　　上原五輪田自治会

企画・制作統括　髙木 裕己
脚本・演出　川崎 けい子

■ライブラリー価格　本体￥65,000＋税
■DVD［カラー］※字幕版も収録されています
■2020年

●お問い合わせ・お買い上げは
㈱オプチカル　販売課 教育映像係
香川県高松市屋島西町2484-8
TEL 087-841-1100
FAX 087-841-1101